

特集・法然上人八百年御忌、浄蓮寺開創八百年

念仏すけささぬ人

— 角張成阿のこと —

高橋 富雄

第一回 念仏ここに人あり

念仏はすけささぬ信と見つけては

角張成阿とその名とどめき

わたくしは、『この師この弟子』

の小著を以て、この寺浄蓮寺とのか

わりを持つようになりました。そ

して、念仏の人、角張成阿弥陀仏と

の出あいになりました。

それは『評伝角張成阿弥陀仏』法

然新発見「角張成阿弥陀仏」へと発

展して、わたくしにとって「角張成

阿」の名は、法然上人に次いで「浄

土宗ナンバー・ツウーの名」になり

ました。

わたくしは、何か、こう、「角張

成阿歴史の利益代表」にでもなった

ような気持ちで、この人の当然の権

益を歴史に回復するようにしたいと

思うに至っているのです。

間もなく、平成二十三年には法然

上人八百年御忌、追って同二十五年

には成阿ご開基浄蓮寺開創八百年の

「歴史の日」をお迎えになる由です。

それを機に、浅からぬ縁に結ばれ

た当寺小林覺雄御住の懇篤なるおこ

とばによりまして、何回かにわたり、

この寺報紙面に、師弟八百年前の美

しい出あいを回想する頌詞を掲載さ

せていただくことになりました。今

回はその「開口」というところす

ので、拙い腰折れで恐縮でしたけれ

ども、師法然上人のかたわらにあっ

て念仏をおとなえする弟子成阿のこ

ころを、「すけささぬ信」とほめた

たえることにさせていただいたので

す。

「念仏はすけささぬ」。すぐ想い

起こされますように、りっぱな出典

のあることばです。『四十八巻伝』

巻第二十一「上人つねに仰られける

御詞」の中の法語です。成阿に面授

して下さったかと思われるくらい、

この人にピッタリ肉づいたおことば

ですので、全文引いておきます。

本願の念仏には、ひとりだちをせ

させて、すけをささぬなり。

すけ、といふは、智慧をもすけに

さし、持戒をもすけにさし、道心

をもすけにさし、慈悲をもすけに

さすなり。

善人は善人ながら念仏し、悪人は

悪人ながら念仏して、ただ、むま

れつきのままにて念仏する人を、

念仏にすけささぬとは云也。

さりながら、悪をあらため、善人

となりて念仏せん人は、仏の御心

に叶べし。

かなはぬ物ゆへに、とあらん、か

からんと思て、決定心おこらぬ人

は、往生不定の人なるべし。

なぜ、この法然法語を以て「成阿

ピッタシ適合型」とするかというこ

とですが、それはこういうわけす。

いったいこの人は、法然門下にあ

つて、同じ武士上がりとして、沙弥

隨蓮という人と並称され、常に上人

の左右に侍り、上人の四国配流にも

相並んで最後までお伴した無二の常

隨近侍者でした。『正源明義抄』な

どという法然上人伝記によりますと、

成阿は「一向信心念仏者」、隨蓮は

「無智といへども信心堅固なり」と

あります。

要するに、学があるとか、戒行が

すぐれているとかいうのでなくて、

一にも二にも信心、ただ師法然ある

のみ、という一向但信の人たちだっ

たのです。

この人たちには、ただ四十八願、

いや第十八願があるだけでした。そ

して、それで十分でした。というよ

り、それが最も正しく確かな至上念

仏道だつのです。

法然法語は、そのことを、的確に

言い切っておられたのです。「本願

の念仏すなわち第十八願の念仏とい

うのは、ただ念仏するだけで十二分

である。ほかに何の助けを借りる必

要もない。すべて備わっている」。

「足りない」備わっていない」。

そう言って心配するだろう。智慧が

ない、持戒も道心も、まして慈悲な

どかけらもない、どうしよう。

一切無要。ない方がよいのだ。た

だ生れついたらままの念仏が「必得往

生」の要件なのだから。ただ、やっ

ぱり悪いことはしないように。仏さ

まもそう望んでおられる。

くよくよしないこと。念仏あるの

み。「一向信心」が唯一の財産だっ

た角張成阿は、そうして、最高・最

良・最上の有資格者として認定され

ていたことになりました。

角張成阿についての確かな史料は

上人の配流に際して、その輿をかつ

ぐ力者の棟梁としてその列に加わっ

た記事ぐらいのものです。そのため

本当のことは何もわからないように

考えられてきました。これは「現世

成阿」についてのことです。「念仏

成阿」は、「本願の念仏にひとりだ

ちして、すけささぬ信に生きる人」

と、上人に証ししていただいで、立

派に信仰の名を歴史にとどめていた

のです。(東北大学名誉教授)